



文白
对照

唐宋八大家文钞



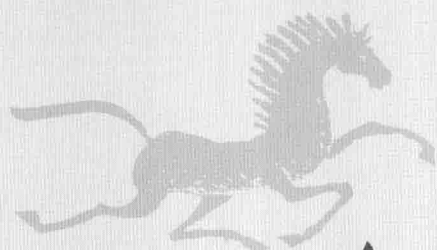
郭预衡◎主编



广东教育出版社



文白
对照



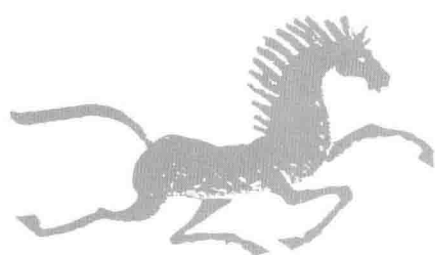
唐宋八大家文钞



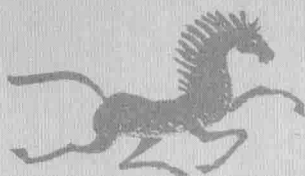
郭预衡◎主编



广东教育出版社



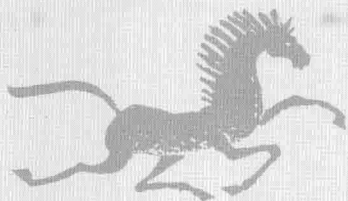
国家古籍整理出版“十五”重点规划项目



欧阳修
：
庐陵文钞

刘德清
萧东海
刘伙根

注译



文白对照唐宋八大家文钞（二）

欧阳修：
庐陵文钞

刘德清

萧东海

刘伙根

注译

(0613)

庐陵文钞引

西京以来，独称太史公迁，以其驰骤跌宕，悲慨呜咽，而风神所注，往往于点缀指次独得妙解，譬之览仙姬于潇湘洞庭之上，可望而不可近者。累数百年而得韩昌黎，然彼固别开门户也。

又三百年而得欧阳子。予览其所序次当世将相学士大夫墓志碑表，与《五代史》所为梁、唐二纪及他名臣杂传，盖与太史公略相上下者。然欧阳子所与友人论文书，绝不之及，何也？又如奏疏、札子，当其善为开陈，分别利害，一切感悟主上，于汉可方晁错、贾谊，于唐可方魏征、陆贽。宋仁庙尝谕廷臣曰：“欧阳修何处得来？”殆亦由此。序、记、书、论虽多得之昌黎，而其姿态横生，别为韵折，令人读之，一唱三叹，余音不绝。

予所以独爱其文，妄谓世之文人学士得太史公之逸者，独欧阳子一人而已。而世之人或予信，或不予信，又或訾其间不免俗调处。嗟乎！抑诚有之。太史公之传仲尼弟子与循吏处，抑岂能与刺客同工哉？观之日月，犹有抱珥，可知之矣。

予读《唐书》、《五代史》，别有钞。今录其文集行世者，首上皇帝书、疏六首，次札子并状五十三首，次表、启二十二首，次书二十五首，次论三十五首，次序三十一首、传二首，次记二十五首，次神道碑铭、墓志铭四十七首，次墓表、祭文、行状二十三首，次颂、赋、他杂著一十首，厘为三十二卷。

噫！侄桂尝以予酷爱欧阳公叙事当不让太史公迁，且前曰：“欧阳公撰《五代史》，当时将相特并齷齪不足数，况兵戈之后，礼崩乐坏，故其文章所表见止此。假令同太史公抽石室之书，传次春秋、战国及先秦、楚汉之际，岂特是而已哉？譬之一人焉，入天子图书琬琰之藏，而陈周彝、汉鼎、牺樽、云罍以相博古；一人焉，特入富人者之室，所可指次者，陶埴菽食而已。”予唯唯。嗟乎！世之欲览欧阳子之全，必合予他所批注《唐书》、《五代史》而读之，斯得之矣。

归安鹿门茅坤题

庐陵文钞·目录

庐陵文钞引

卷二十九 庐陵文钞一 [上书]

通进司上皇帝书 (1)

准诏言事上书 (9)

卷三十 庐陵文钞二 [书][疏][札子]

论台谏官言事未蒙听允书 (19)

论包拯除三司使上书 (22)

论选皇子疏 (25)

水灾疏 (27)

论美人张氏恩宠宜加裁损札子 (31)

论议濮安懿王典礼札子 (32)

论葬荆王后赠燕王一行事札子 (37)

论葬荆王札子 (38)

卷三十一 庐陵文钞三 [札子]

论乞主张范仲淹富弼等行事札子 (41)

论贾昌朝除枢密使札子 (42)

论台谏官唐介等宜早牵复札子 (44)

荐王安石、吕公著札子 (47)

荐司马光札子 (49)

乞奖用孙沔札子 (50)

止绝吕夷简暗入文字札子 (51)

论狄青札子 (52)

论水洛城事宜乞保全刘沪等札子 (54)

论罢郑戩四路都部署札子 (56)

论张子夷恩赏太频札子 (58)

论江淮官吏札子 (60)

卷三十二 庐陵文钞四 [札子]

乞补馆职札子 (62)

论乞令百官议事札子 (63)

论谏院宜知外事札子 (64)

乞添上殿班札子 (66)

论任人之体不可疑札子 (67)

论军中选将札子 (68)

论逐路取人札子 (71)

言青苗钱第一札子 (74)

请耕禁地札子 (77)

卷三十三 庐陵文钞五 [札子]

论契丹求御容札子 (79)

论澧州瑞木乞不宣示外廷札子 (80)

论河北守备事宜札子 (82)

论麟州事宜札子 (85)

论湖南蛮贼可招不可杀札子 (88)

论乞放还蕃官胡继谔札子 (89)

论乞与元昊约不攻唃廝囉札子 (91)

论与西贼大斤茶札子 (93)

言西边事宜第二札子 (94)

论西贼占延州侵地札子 (96)

卷三十四 庐陵文钞六 [状]

论杜衍范仲淹等罢政事状 (98)

论禁止无名子伤毁近臣状 (101)

论茶法奏状 (103)

论史馆日历状 (106)

议学状 (108)

乞与尹构一官状 (111)

举丁宝臣状 (112)

再论许怀德状 (113)

卷三十五 庐陵文钞七 [状]

论修河第一状 (115)

论修河第二状 (117)

论修河第三状 (120)

再论水灾状 (124)

卷三十六 庐陵文钞八 [状]

论乞廷议元昊通和事状 (128)

论西贼议和请以五问诘大臣状 (129)

论西贼议和利害状 (131)

言西边事宜第一状 (133)

论契丹侵地界状 (138)

论刘三赝事状	(141)	与张棐秀才第一书	(198)
卷三十七 庐陵文钞九 [表][启]		与张秀才第二书	(199)
谢知制诰表	(144)	与荆南乐秀才书	(201)
滁州谢上表	(145)	答陕西安抚使范龙图辞辟命书	(203)
扬州谢上表	(147)	答祖择之书	(205)
谢宣召入翰林表	(148)	答李大临学士书	(206)
再辞侍读学士表	(149)	答徐无党第一书	(207)
进新修《唐书》表	(150)	答宋咸书	(208)
辞枢密副使表	(151)	答吴充秀才书	(210)
贺平贝州表	(153)	代人上王枢密求先集序书	(211)
乞罢政事第三表	(153)	代杨推官洎上吕相公求见书	(213)
亳州乞致仕第二表	(155)	卷四十 庐陵文钞十二 [论]	
蔡州乞致仕第二表	(156)	正统论上	(216)
蔡州乞致仕第三表	(157)	正统论下	(218)
谢明堂覃恩转官表	(158)	为君难论上	(223)
谢复龙图阁直学士表	(159)	为君难论下	(226)
南京留守谢上表	(160)	卷四十一 庐陵文钞十三 [论]	
亳州谢上表	(161)	本论上	(229)
谢赐《汉书》表	(162)	本论中	(233)
谢擅止散青苗钱放罪表	(163)	本论下	(236)
谢襄州燕龙图肃惠诗启	(164)	原弊论	(239)
谢石秀才启	(165)	卷四十二 庐陵文钞十四 [论]	
谢校勘启	(166)	《春秋》论上	(244)
谢进士及第启	(168)	《春秋》论中	(246)
卷三十八 庐陵文钞十 [书]		《春秋》论下	(248)
上范司谏书	(173)	《春秋》或问	(250)
与高司谏书	(175)	《秦誓》论	(252)
论河北财产上时相书	(178)	朋党论	(254)
投时相书	(181)	纵囚论	(256)
上杜中丞书	(183)	卷四十三 庐陵文钞十五 [史论]	
与刁景纯学士书	(185)	唐书兵志论	(258)
与蔡君谟求书《集古录序》书	(186)	唐书礼乐志论	(259)
与陈员外书	(188)	唐书食货志论	(262)
与黄校书论文章书	(189)	唐书艺文志论	(263)
与谢景山书	(190)	唐书五行志论	(265)
与曾巩论氏族书	(191)	五代史梁太祖论	(267)
与郭秀才书	(192)	五代史唐明宗论	(267)
卷三十九 庐陵文钞十一 [书]		五代史晋家人传论	(268)
与石推官第一书	(194)	五代史周世宗论	(270)
与石推官第二书	(196)		

卷四十四 庐陵文钞十六 [史论]

五代史职方考论	(272)
五代史司天考论	(273)
五代史前蜀王建世家论	(273)
五代史周臣传论	(274)
五代史唐六臣传论一	(275)
五代史唐六臣传论二	(275)
五代史冯道传论	(276)
五代史王进传论	(277)
五代史一行传论	(277)
五代史宦者传论	(278)
五代史伶官传论	(278)

卷四十五 庐陵文钞十七 [序]

帝王世次图序	(279)
外制集序	(280)
内制集序	(282)
薛简肃公文集序	(284)
苏氏文集序	(285)
廖氏文集序	(287)
江邻几文集序	(288)
仲氏文集序	(290)
梅圣俞诗集序	(291)
谢氏诗序	(292)
释惟俨文集序	(293)
释秘演诗集序	(295)

卷四十六 庐陵文钞十八 [序]

章望之字序	(297)
张应之字序	(298)
郑荀改名序	(300)
送王陶序	(301)
送徐无党南归序	(303)
送杨真序	(304)
送秘书丞宋君归太学序	(306)
送梅圣俞归河阳序	(307)
送廖倚归衡山序	(308)
送曾巩秀才序	(309)
送田画秀才宁亲万州序	(310)

卷四十七 庐陵文钞十九 [序][传]

传易图序	(313)
诗谱补亡后序	(315)

删正黄庭经序	(318)
韵总序	(319)
孙子后序	(321)
续思颖诗序	(323)
礼部唱和诗序	(324)
集古录目序	(325)
桑怿传	(327)
六一居士传	(330)

卷四十八 庐陵文钞二十 [记]

仁宗御飞白记	(333)
御书阁记	(334)
相州昼锦堂记	(335)
有美堂记	(337)
岷山亭记	(339)
李秀才东园亭记	(340)
泗州先春亭记	(342)
真州东园记	(344)
海陵许氏南园记	(345)
丛翠亭记	(347)
菱溪石记	(348)
浮槎山水记	(349)
游鰲亭记	(351)
伐树记	(352)

卷四十九 庐陵文钞二十一 [记]

吉州学记	(355)
襄州谷城县夫子庙记	(357)
丰乐亭记	(359)
醉翁亭记	(360)
画舫斋记	(362)
峡州至喜亭记	(363)
夷陵县至喜堂记	(365)
偃虹堤记	(366)
王彦章画像记	(368)
樊侯庙灾记	(371)
明因大师塔记	(372)

卷五十 庐陵文钞二十二 [碑铭]

忠武军节度使同中书门下平章事武恭王公神道碑铭	(375)
太尉文正王公神道碑铭	(379)

镇安军节度使同中书门下平章事赠

太师中书令程公神道碑铭 (385)

太子太师致仕赠司空兼侍中文惠

陈公神道碑铭 (390)

卷五十一 庐陵文钞二十三 [碑铭]

观文殿大学士行兵部尚书西京留守

赠司空兼侍中晏公神道碑铭 (396)

资政殿学士户部侍郎文正范公神

道碑铭 (401)

赠刑部尚书余襄公神道碑铭 (406)

尚书度支郎中兼天章阁待制王公神

道碑铭 (411)

尚书户部郎中赠右谏议大夫曾公神

道碑铭 (414)

金部郎中赠兵部侍郎阎公神道碑铭

..... (417)

卷五十二 庐陵文钞二十四 [墓志铭]

太子太师致仕杜祁公墓志铭 (421)

镇安军节度使同中书门下平章事赠

中书令谥文简程公墓志铭 (425)

尚书户部侍郎参知政事赠右仆射文

安王公墓志铭 (430)

资政殿大学士尚书左丞赠吏部尚书

正肃吴公墓志铭 (435)

卷五十三 庐陵文钞二十五 [墓志铭]

赠太子太傅胡公墓志铭 (440)

端明殿学士蔡公墓志铭 (445)

集贤院学士刘公墓志铭 (449)

资政殿大学士尚书户部侍郎简肃薛公

墓志铭 (454)

卷五十四 庐陵文钞二十六 [墓志铭]

翰林侍读学士给事中梅公墓志铭

..... (459)

翰林侍读学士右谏议大夫杨公

墓志铭 (462)

翰林侍读学士右谏议大夫赠工部

侍郎张公墓志铭 (465)

尚书刑部郎中充天章阁待制兼侍读

赠右谏议大夫孙公墓志铭 (468)

谏议大夫杨公墓志铭 (472)

卷五十五 庐陵文钞二十七 [墓志铭]

兵部员外郎天章阁待制杜公

墓志铭 (476)

尚书工部郎中欧阳公墓志铭 (479)

尚书职方郎中分司南京欧阳公

墓志铭 (481)

尚书比部员外郎陈君墓志铭 (484)

尚书工部郎中充天章阁待制许公

墓志铭 (486)

尚书都官员外郎欧阳公墓志铭 (489)

卷五十六 庐陵文钞二十八 [墓志铭]

尚书主客郎中刘君墓志铭 (492)

大理寺丞狄君墓志铭 (495)

太常博士尹君墓志铭 (497)

湖州长史苏君墓志铭 (499)

徂徕石先生墓志铭 (502)

故霸州文安县主簿苏君墓志铭 (505)

蔡君山墓志铭 (507)

梅圣俞墓志铭 (509)

卷五十七 庐陵文钞二十九 [墓志铭]

江邻几墓志铭 (512)

黄梦升墓志铭 (514)

张子野墓志铭 (516)

薛质夫墓志铭 (518)

尹师鲁墓志铭 (520)

孙明复先生墓志铭 (522)

南阳县君谢氏墓志铭 (524)

长寿县太君李氏墓志铭 (526)

渤海县太君高氏墓碣 (527)

北海郡君王氏墓志铭 (529)

卷五十八 庐陵文钞三十 [墓表]

石曼卿墓表 (531)

尚书屯田员外郎李君墓表 (533)

内殿崇班薛君墓表 (535)

连处士墓表 (536)

尚书屯田员外郎张君墓表 (538)

永春县令欧君墓表 (539)

河南府司录张君墓表 (541)

太常博士周君墓表 (543)

右班殿直赠右羽林军将军唐君墓表

..... (544)

胡先生墓表 (546)

沈冈阡表 (548)

集贤校理丁君墓表 (551)

卷五十九 庐陵文钞三十一 [祭文]

[行状]

祭谢希深文 (554)

祭吴尚书文 (555)

祭资政范公文 (556)

祭尹师鲁文 (557)

祭苏子美文 (559)

祭梅圣俞文 (560)

祭石曼卿文 (561)

祭丁学士文 (562)

祭程相公文 (563)

尚书户部侍郎赠兵部尚书蔡公行状

..... (564)

司封员外郎许公行状 (568)

卷六十 庐陵文钞三十二 [颂][赋]

[杂著]

会圣官颂 (572)

跋唐华阳颂 (575)

秋声赋 (576)

憎苍蝇赋 (578)

怪竹辩 (580)

杂说三 并序 (581)

论尹师鲁墓志 (583)

记旧本韩文后 (585)

读李翱文 (587)

书梅圣俞稿后 (589)

庐陵史钞引

卷六十一 庐陵史钞一 [本纪]

梁太祖 (593)

卷六十二 庐陵史钞二 [本纪]

唐庄宗纪 (604)

唐明宗纪 (616)

卷六十三 庐陵史钞三 [家人传]

总论 (621)

唐刘后传 (622)

唐继岌传 (625)

唐从璟传 (628)

唐秦王从荣传 (630)

汉湘阴公赞传 (634)

卷六十四 庐陵史钞四 [梁臣传]

五代臣传总论 (637)

敬翔传 (637)

葛从周传 (640)

康怀英传 (643)

刘鄩传 (644)

牛存节传 (647)

杨师厚传 (649)

王景仁传 (652)

卷六十五 庐陵史钞五 [唐臣传]

郭崇韬传 (654)

安重海传 (660)

卷六十六 庐陵史钞六 [唐臣传]

周德威传 (667)

符存审传 (671)

史建瑭传 (673)

王建及传 (675)

元行钦传 (676)

卷六十七 庐陵史钞七 [唐臣传]

乌震传 (680)

张延朗传 (681)

李严传 (682)

刘延朗传 (684)

康义诚传 (688)

卷六十八 庐陵史钞八 [唐晋周臣传]

豆卢革传 (692)

任圜传 (694)

张宪传 (697)

晋臣桑维翰传 (699)

晋臣景延广传 (702)

周臣王朴传 (705)

卷六十九 庐陵史钞九

死节传 (710)

- 死事传 (715)
- 卷七十 庐陵史钞十**
- 一行传 (725)
- 唐六臣传 (729)
- 义儿传 (736)
- 卷七十一 庐陵史钞十一**
- 伶官传 (740)
- 宦者传 (745)
- 卷七十二 庐陵史钞十二 [杂传]**
- 王镕传 (751)
- 罗绍威传 (755)
- 王处直传 (758)
- 刘守光传 (762)
- 卷七十三 庐陵史钞十三 [杂传]**
- 李茂贞传 (767)
- 温韬传 (770)
- 朱宣传 (772)
- 赵犨传 (775)
- 卷七十四 庐陵史钞十四 [杂传]**
- 康延孝传 (780)
- 房知温传 (782)
- 王晏球传 (785)
- 郭延鲁传 (787)
- 张希崇传 (788)
- 皇甫遇传 (789)
- 高行周传 (791)
- 卷七十五 庐陵史钞十五 [杂传]**
- 皇甫晖传 (794)
- 王进传 (795)
- 范延光传 (796)
- 安重荣传 (802)
- 李守贞传 (805)
- 卷七十六 庐陵史钞十六 [杂传]**
- 冯道传 (810)
- 李琪传 (813)
- 刘岳传 (817)
- 和凝传 (819)
- 张允传 (821)
- 马重绩传 (822)
- 卷七十七 庐陵史钞十七 [论]**
- 司天考论 (824)
- 职方考论 (830)
- 卷七十八 庐陵史钞十八 [世家]**
- 杨行密世家 (834)
- 李煜世家 (840)
- 王衍世家 (842)
- 卷七十九 庐陵史钞十九 [世家]**
- 钱镠世家 (848)
- 刘旻世家 (854)
- 卷八十 庐陵史钞二十**
- 四夷附录 (860)

卷二十九 庐陵文钞一 [上书]

通进司上皇帝书^[1]

茅坤评曰：“览此书，反复利害，洞悉事机，欧阳公少时已具宰相之略如此，不可不知。”

1 十二月二十四日，宣德郎、守太子中允、充馆阁校勘臣欧阳修谨昧死再拜上书于皇帝阙下：

2 臣伏见国家自元昊叛逆、关西用兵以来^[2]，为国言事者众矣。臣初窃为三策，以料贼情。然臣迂儒，不识兵之大计，始犹迟疑，未敢自信。今兵兴既久，贼形已露，如臣素料，颇不甚远。故窃自谓有可以助万一而尘听览者，谨条以闻。惟陛下仁圣，宽其狂妄之诛，幸甚！

3 夫关西弛备而民不见兵者，二三十年矣^[3]。使贼萌乱之初，藏形隐计，卒然而来。当是时，吾之边屯寡弱，城堡未完，民习久安而易惊，将非素选而败怯，使其羊驱豕突，可以奋然而深入。然国威未挫，民力未疲，彼得城而居，不能久守，虏掠而去，可邀击其归。此下策也，故贼知而不为之。戎狄侵边，自古为患，其攻城掠野，败则走而胜则来，盖其常事。此中策也，故贼兼而用之。若夫假僭名号^[4]，以威其众，先击吾之易取者一二以悦其心，然后训养精锐为长久之谋。故其来也，虽胜而不前，不败而自退，所以诱吾兵而劳之也。或击吾东，或击吾西，乍出乍入，所以使吾兵分备多而不得减息也。吾欲速攻，贼方新锐；坐而待战，彼则不来。如此相持，不三四岁，吾兵已老，民力已疲，不幸又遇水旱之灾，调敛不胜而盗贼群起，彼方奋其全锐，击吾困弊，可也。使吾不堪其困，忿而出攻，决于一战，彼以逸而待吾劳，亦可也。幸吾苦兵，计未知出，遂求通聘，以邀岁时之赂，度吾困急不得不从，亦可也。是吾力一困，则贼谋无施而不可。此兵法所谓不战而疲人兵者，上策也，而贼今方用之。今三十万之兵食于西者二岁矣，又有十四五万之乡兵不耕而自食其民^[5]。自古未有四五十万之兵连年仰食而国力不困者也。

4 臣闻元昊之为贼，威能畏其下，恩能死其人。自初僭叛，慢书已上^[6]，逾年而不出，一出则锋不可当。执劫蕃官^[7]，获吾将帅，多礼而不杀。此其凶谋所畜，皆非仓卒者也^[8]。奈何彼能以上策而疲吾，吾不自知其已困，彼为久计以挠我，我无长策而制之哉！

5 夫训兵养士，伺隙乘便，用间出奇，此将帅之职也，所谓阃外之事而君不御者，可也。至于外料贼谋之心，内察国家之势，知彼知此，因谋制敌，此朝廷之大计也，所谓庙算而胜者也^[9]，不可以不思。今贼谋可知，以久而疲我耳；吾势可察，西人已困也。诚能丰财积粟，以纾西人而完国壮兵，则贼谋沮而庙算得矣。

6 夫兵，攻守而已，然皆以财用为强弱也。守非财用而不久，此不待言，请试言攻。昔秦席六世之强，资以事胡，卒困天下而不得志^[10]。汉因文、景之富力，三举而才得河南^[11]。隋唐突厥、吐蕃常与中国相胜败，击而胜之有矣，未有举而灭者。秦汉尤强者，其所攻，今元昊之地是也。况自刘平陷没^[12]，贼锋炽锐，未尝挫衄。攻守之计，非臣所知。天威所加，虽终期于扫尽，然临边之将，尚未闻得贼衅隙，挫其凶锋。是攻守皆未有休息之期，而财用不为长久之计，

臣未见其可也。四五十万之人坐而仰食，然关西之地物不加多，关东所有莫能运致。掊克细碎既以无益而罢之矣，至于鬻官入粟，下无应者，改法榷货，而商旅不行。是四五十万之人，惟取足于西人而已，西人何为而不困？困而不起为盗者，须水旱尔。外为贼谋之所疲，内遭水旱而多故，天下之患，可胜道哉？夫关西之物不能加多，则必通其漕运而致之^[13]。漕运已通，而关东之物不充，则无得而西矣。故臣以谓通漕运、尽地利、权商贾，三术并施，则财用足而西人纾，国力完而兵可久，以守以攻，惟上所使。

7 夫小琐目前之利，既不足为，长久之谋，非旦夕而可效。故为长久而计者，初若迂愚而可笑，在必而行之，则其利博矣。故臣区区不敢避迂愚之责，请上便宜三事，惟陛下裁择。

8 其一曰通漕运。臣闻今为西计者，皆患漕运之不通，臣以谓但未求之耳。今京师在汴，漕运不西，而人之习见者遂以为不能西。不知秦、汉、隋、唐其都在雍^[14]，则天下之物皆可致之西也。山川地形非有变易于古，其路皆在，昔人可行，今人胡为而不可？汉初，岁漕山东粟数十万石，是时运路未修，其漕尚少。其后，武帝益修渭渠，至漕百馀万石。隋文帝时，沿水为仓，转相运置，而关东、汾、晋之粟皆至渭南，运物最多，其遗仓之迹，往往皆在。然皆尚有三门之险。自唐裴耀卿又寻隋迹^[15]，于三门东、西置仓，开山十八里，为陆运以避其险，卒溯河而入渭，当时岁运不减二三百万石。其后刘晏遵耀卿之路^[16]，悉漕江淮之米以实关西。后世言能经财利而善漕运者，耀卿与晏为首。今江淮之米岁入于汴者六百万石，诚能分给关西，得一二百万石足矣。今兵之食汴漕者出戍甚众，有司不惜百万之粟分而及之，其患者，三门阻其中尔^[17]。今宜浚治汴渠，使岁运不阻，然后按求耀卿之迹，不惮十许里陆运之劳，则河漕通而物可致，且纾关西之困。使古无法，今有可为，尚当为之，况昔人之行之而未远，今人之行之而岂难哉？耀卿与晏初理漕时，其得尚少，至其末年，所入十倍，是可久之法明矣。此水运之利也。臣闻汉高祖之入秦，不由东关而道南阳，过郾、析而入武关^[18]。曹操等起兵诛董卓，亦欲自南阳道丹、析而入长安^[19]。是时张济又自长安出武关^[20]，奔南阳。则自古用兵往来之径也。臣尝至南阳，问其遗老，云自邓西北至永兴六七百里，今小商贾往往行之。初汉高入关，其兵十万。夫能容十万兵之路，宜不甚狭而险也。但自洛阳为都，行者皆趋东关，其路久而遂废。今能按求而通之，则武昌、汉阳、郢、复、襄阳、梁、洋、金、商、均、房、光化沿汉之地^[21]，十一二州之物，皆可漕而顿之南阳。自南阳为轻车人辇而递之，募置递兵，为十五六铺，则十馀州之物日日入关而不绝。沿汉之地山多美木，近汉之民仰足而有馀，以造舟车，甚不难也。前日陛下深恤有司之勤，内赐禁钱数十万以供西用，而道路艰远，辇运逾年，不能毕至。至于军装输送，多苦秋霖，边州已寒，冬服尚滞于路。其艰如此。夫使州县纲吏远输京师，转冒艰滞然后得西，岂若较南阳之旁郡，度其道里入于武关与至京师远近等者，与其尤近者，皆使直输于关西。京师之用有不足，则以禁帑出赐有司者代而充用。其迂曲简直，利害较然矣。此陆运之利也。

9 其二曰尽地利。臣闻昔之画财利者易为工，今之言财利者难为术。昔者之民，赋税而已，故其不足，则铸山煮海，榷酒与茶^[22]，征关市而算舟车，尚有可为之法，以苟一时之用。自汉、魏迄今，其法日增，其取益细，今取民之法尽矣。昔者赋外之征，以备有事之用。今尽取民之法，用于无事之时，悉以冗费而糜之矣，至卒然有事，则无法可增。然独犹有可为者。民作而输官者已劳，而游手之人方逸；地之产物者耕不得代，而不垦之土尚多。是民有遗力，地有遗利，此可为也。况历视前世，用兵者未尝不先营田。汉武帝时，兵兴用乏，赵过为畎田人犁之法以足用^[23]。赵充国攻西羌，议者争欲出击，而充国深思全胜之策，能忍而待其弊^[24]。至违诏罢兵而治屯田，田于极边，以游兵而防钞寇，则其理田不为易也，犹勉为之。后汉之时，曹操屯兵许下，强敌四面，以今视之，疑其旦夕战争而不暇。然用枣祗、韩浩之计，建置田官，募民而田近

许之地，岁得谷百万石，其后郡国皆田，积谷无数^[25]。隋、唐田制尤广，不可胜举。其势艰而难田，莫若充国，迫急而不暇田，莫如曹操，然皆勉焉。不以迂缓而不田者，知地利之博而可以纾民劳也。今天下之土不耕者多矣，臣未能悉言，谨举其近者。自京以西，土之不辟者，不知其数。非土之瘠而弃也，盖人不勤农，与夫役重而逃尔。久废之地，其利数倍于营田，今若督之使勤，与免其役，则愿耕者众矣。臣闻乡兵之不利于民，议者方论之矣。充兵之人遂弃农业，托云教习，聚而饮博，取资其家，不顾无有，官吏不加禁，父兄不敢诘，家家自以为患也。河东、河北、关西之乡兵，此犹有用。若京东、西者，平居不足以备盗，而水旱适足以为盗，其尤可患者。京西素贫之地，非有山泽之饶，民惟力农是仰。而今三夫之家一人、五夫之家二人为游手，凡十八九州，以少言之，尚可四五万人不耕而食，是自相糜耗而重困也。今诚能尽驱之使耕于弃地，官贷其种，岁田之人与中分之，如民之法募吏之习田者为田官，优其课最而诱之，则民愿田者众矣。太宗皇帝时，尝贷陈、蔡民钱，使市牛而耕^[26]。真宗皇帝时，亦用耿望之言，买牛湖南而治屯田^[27]。今湖南之牛岁贾于北者，皆出京西，若官为买之，不难得也。又宜重为法以困所谓私牛之客者，使不容于民而乐为官耕。凡民之已有牛者使自耕，则牛不足而官市者不多。且乡兵本农也，籍而为兵，遂弃其业，今幸其去农未久，尚可复驱还之田亩，使不得群游而饮博，以为父兄之患，此民所愿也。一夫之力，以逸而言，任耕纍田一顷。使四五万人皆耕，而久废之田利又数倍，则岁谷不可胜数矣。京西之分，北有大河，南至汉而西接关，若又通其水陆之运，所在积谷，惟陛下诏有司而移用之耳。

10 其三曰权商贾^[28]。臣闻秦废王法，启兼并，其上侵公利，下刻细民，为国之患久矣。自汉以来，尝欲为法而抑夺之，然不能也。盖为国者兴利日繁，兼并者趋利日巧，至其甚也，商贾坐而权国利。其故非他，由兴利广也。夫兴利广则上难专，必与下而共之，然后通流而不滞。然为今议者，方欲夺商之利，一归于公上而专之。故夺商之谋益深，则为国之利益损。前日有司屡变其法，法每一变，则一岁之间所损数百万。议者不知利不可专，欲专而反损，但云变法之未当，变而不已，其损愈多。夫欲十分之利皆归于公，至其亏少十不得三，不若与商共之，常得其五也。今为国之利多者，茶与盐耳。茶自变法以来，商贾不复，一岁之失，数年莫补，所在积朽，弃而焚之。前日议者屡言三说之法为便^[29]，有司既以详之矣，今诚能复之，使商贾有利而通行，则上下济矣。解池之盐^[30]，积若山阜，今宜暂下其价，诱群商而散之。先为令曰三年将复旧价，则贪利之商争先而辍矣。夫茶者生于山而无穷，盐者出于水而不竭，贱而散之三年，十未减其一二。夫二物之所以贵者，以能为国资钱币尔。今不散而积之，是惜朽壤也，夫何用哉？夫大商之能蕃其货者，岂其锱铢躬自鬻于市哉？必有贩夫小贾就而分之。贩夫小贾无利则不为，故大商不妒贩夫之分其利者，恃其货博，虽取利少，货行流速，则积少而为多也。今为大国者，有无穷不竭之货，反妒大商之分其利，宁使无用而积为朽壤，何哉？故大商之善为术者，不惜其利而诱贩夫；大国之善为术者，不惜其利而诱大商。此与商贾共利，取少而致多之术也。又今商贾之难以术制者，以其积货多而不急故也。利厚则来，利薄则止，不可以号令召也。故每有司变法，下利既薄，小商以无利而不能行，则大商方幸小商之不行，适得独卖其货，尚安肯勉趋薄利而来哉？故变法而刻利者，适足使小商不来，而为大商贾积货也。今必以术制商，宜尽括其居积之物，官为卖而还之，使其货尽而后变法。夫大商以利为生，一岁不营利，则有惶惶之忧，彼必不能守积钱而闲居，得利虽薄，犹将勉而来。此变法制商之术也。夫欲诱商而通货，莫若与之共利，此术之上也。欲制商，使其不得不从，则莫若痛裁之，使无积货，此术之下也。然此可制茶商耳，若盐者，禁益密，则冒法愈多而刑繁。若乃县官自为鬻市之事，此大商之不为，臣谓行之难久者也。诚能不较锱铢而思远大，则积朽之物散而钱币通，可不劳而用足矣。

11 臣愚，不足以知时事。若夫坚守以捍贼，利则出而扰之，凡小便宜，愿且委之边将。至于积谷与钱，通其漕运，不二三岁，而国力渐丰，边兵渐习，贼锋渐挫，而有隙可乘，然后一举而灭之，此万全之策也。愿陛下以其小者责将帅，谋其大计而行之，则天下幸甚。

12 臣修昧死再拜。

【注释】

[1] 此文作于康定元年（公元1040年）。时作者在京师任馆职，修《崇文总目》。文中提出“通漕运”、“尽地利”、“权商贾”三大主张，旨在发展经济，增强综合国力，坚持对西夏作战。

[2] 元昊：夏国王李德明之子。宋明道元年（公元1032年）嗣位，改唐、宋所赐姓为嵬名氏，自称兀卒（青天子）。宝元元年（公元1038年）即皇帝位，国号大夏，形成与宋、辽三足鼎立的局势。

[3] “夫关西”二句：宋真宗景德二年（公元1005年），宋夏议和，至仁宗天圣九年（公元1031年），西部边境无战争。

[4] 假僭名号：指元昊背叛宋廷，自立国号，改元“天授礼法延祚”。

[5] 乡兵：宋代地方民兵。兵员选自民户，平时不脱离生产，农闲时就地集合训练。

[6] 慢书：侮辱性的书信。

[7] 蕃官：宋廷授予边境地区少数民族的官职。

[8] 茅坤于此有批语云：“总上。”

[9] 庙算：由朝廷制定的克敌谋略。古代用兵前在祖庙或朝堂举行一定仪式，讨论和决定作战方略，故称。

[10] 席：依仗，凭借。六世：指秦孝公、惠文王、武王、昭襄王、孝文王、庄襄王。

[11] 河南：今内蒙古河套地区。

[12] 刘平：字士衡，宋开封祥符人。康定元年（公元1040年）正月，元昊攻延州。刘平时为鄜延、环庆副都部署，督骑兵前往救援，陷入敌围，被俘。

[13] 漕运：水路运输。特指从水路将朝廷征收的粮食、钱帛等物资，运输到京师或其他指定地点，以保障皇室、官府、军队的供给。

[14] 雍：雍州，古代九州之一。秦都咸阳，西汉、隋、唐都长安，均属古雍州地。

[15] 裴耀卿：字焕之，唐稷山人。玄宗开元年间任京兆尹，提议广通漕运以加强国防。在三门峡险段开山十八里为陆运，辅助黄河漕运。官至尚书左仆射。

[16] 刘晏：字士安，唐曹州南华人。肃宗、代宗两朝为户部侍郎，领度支、盐铁、转运、铸钱、租庸使。遵依“三门遗迹”，每年漕运四十万斛江淮米至关西。

[17] 三门：三门山，又称砥柱山。在今河南陕县东北黄河中流，为西北漕运难关。

[18] “臣闻”三句：刘邦率领起义军进攻咸阳，不走东关（今湖北郧县），取道南阳，过郧县（今河南内乡县北）、析县（今河南内乡县西北），由武关（今陕西商洛县西南）入秦地。

[19] “曹操”二句：《三国志·魏志·武帝纪》记载，曹操跟从袁绍伐董卓，向陈留太守张邈献谋：“袁将军率南阳之军道丹、析，入武关，以震三辅。”丹：丹邑，治所在今河南淅川县西南。

[20] 张济：汉末权臣董卓部将。董卓死后，与李傕、郭汜、樊稠等屠掠长安，后被杀于南阳。

[21] 郢：郢州，州治在今湖北钟祥。复：复州，今湖北天门。梁：梁州，今陕西汉中。洋：洋州，今陕西洋县。金：金州，今陕西安康。商：商县，今属陕西。均：均州，治所在今湖北均县西北。房：房州，今湖北房县。光化：光化军，治所在今湖北光化县西北。

[22] “榷酒”句：榷酒与茶是宋朝重要财政收入。宋对大部分地区实行酒的禁榷，民间不准酿造和出售私酒，并实施茶叶产销专卖与课税的制度。

[23] “赵过”句：《汉书·食货志》记载，汉武帝末年，后悔征伐之事，任命赵过为搜粟都尉。赵过教人“畎田”、“人犁”之法，即耕种、养苗和人力挽犁的技术，边地、荒土大量开发，国用遂足。

[24] “赵充国”四句：赵充国，字翁孙，西汉上邽人。宣帝初封营平侯。西羌叛乱，充国奉命出征，不遵诏令，罢兵屯田，以待敌弊，结果凯旋而归。

[25] “然用”六句：《三国志·魏志·武帝纪》记载，建安元年“是岁用枣祗、韩浩等议，始兴屯田”。裴松之注引《魏书》：“是岁乃募兵屯田许下，得谷百万斛。于是州郡例置田官，所在积谷。”

[26] “太宗”三句：据《宋史·食货志》记载，宋太宗至道二年（公元996年），太常博士、直史馆陈靖上言：“乏粮种、耕牛者，令司农以官钱给借。”朝廷任命陈靖为京西劝农使，在陈、蔡等州“劝民垦田”，“未几，三司以费官钱数多，万一水旱，恐致散失，事遂寝”。

[27] “真宗”三句：《宋史·食货志》记载，真宗朝“知襄州耿望请于旧地兼括荒田，置营田上、中、下三务，调夫五百，筑堤堰，仍集邻州兵每务二百人，荆湖市牛七百分给之”。

[28] 权商贾：利用商贩，放宽商禁，促进市场交流，增加财税收入。

[29] 三说之法：又称三分法。北宋驻兵西北，募商人向边地入纳粮草，按地域远近折价，以东南茶叶偿付。后因茶叶不足，至道元年（公元995年）改为一分支钱，一分支香药象齿，一分支茶货，称三分法。

[30] 解池：地名。在今山西运城东南，以产盐著称。

【译文】

1 十二月二十四日，宣德郎、试任太子中允、充任馆阁校勘臣欧阳修恭恭敬敬，冒着死罪，一再叩拜，向皇帝阙下上书：

2 臣见国家自从西夏元昊反叛、关西用兵以来，谈论国家大事的人，算是很多了。臣最初私下设计了三条对策，预料敌人的情况，以对付他们。但臣是一个迂阔的读书人，不懂得用兵的策略，因而开始还犹豫不决，不敢自信。现在，战争发生已经很久了，敌人的形迹已经暴露，这些情况正像臣往常预料的那样，相差并不太远。所以臣私下认为，臣应把可以起到哪怕万分之一的作用而损污陛下听觉、视觉的见解，恭敬地列述出来，让陛下知道。只希望陛下仁慈圣明，宽恕臣狂妄的罪过，就万分庆幸了。

3 关西放松军事戒备，老百姓没有看到打仗的局面，已二三十年了，致使敌人最初发动反叛的时候，能隐蔽形迹，暗藏阴谋，然后突然间打进来。当这个时候，我们的边防部队人少势弱，城防工事没有修缮好，百姓习惯于长期的安宁，因而容易慌乱，将领不是充分挑选出来的，因而胆怯失败，使得敌人像驱赶羊群、冲击猪群那样容易，可以奋发军威，长驱直入。但是，国家的威势还没有损伤，百姓的力量还不困乏，他们占领城池住了下来，但不能长期守住，劫掠财物离开的时候，我们可以在他们的归途上截击。这是下等策略，所以敌人知道而不这样做。异族侵犯边境，自古以来就是祸患，他们攻占城池，抢掠村野，失败就逃走，胜利就前来，这是经常的事情。这是中等策略，所以敌人一并应用它。至于凭借非法自立的名号，来统摄当地的民众，先进攻我们容易被攻取的一两处地方来取悦民心，鼓舞士气，然后训练、蓄养精兵，作长期打算。所以他们前来进攻的时候，虽然取得胜利也不前进，没有打败仗也自己撤退。这是用来逗引我军，使我军疲劳不堪。敌人有时候进攻我们的东边，有时候进攻我们的西边，骤然撤回去，又骤然攻进来，这是要使我们兵力分散、防线增多，得不到休息。我们想迅速攻破它，敌人又正当锐气新振；想坐等战机，他们却不来。像这样相持下去，不到三四年，我军已经丧失士气，百姓已经财力困乏，如果不幸又遭到水灾、旱灾，百姓经受不起租税，强盗成群涌现，敌人振作他们的全部锐气，乘我们疲惫困乏时攻击我们，是可以的。假使我们无法忍受自己的困乏，愤恨地出兵进攻，想一仗决出胜负，那么他们用安逸来等待我们的劳苦，也是可以的。敌人期望我们苦于用兵、找不到更好的计谋时，请求通使讲和，求得每年按时获得财物，估料我们由于困顿危急而不得不听从，也是可以的。这样，我们的力量一旦困乏，敌人无论实行什么计谋，也不会行不通。这便是兵法上说的不打仗也使对方的军队疲惫，是上等策略，而敌人现在正运用这个策略。现在三十万兵士取食于西部边境两年了，又有十四五万乡兵不种田而取食于当地百姓。自古以来，从未有过四五十万部队连年靠国家养活而国家财力不困乏的。

4 臣听说，敌国首领元昊，威势能使他的下属感到畏惧，恩德能让他的下属替他卖命。自从最初非法自立、反叛以来，侮辱的书表已经送上，却超过一年还不出兵，后来一旦出兵，就锋不可当。捉拿民族官员，俘虏我们的将帅，大多礼貌相待而不杀害。这说明他们的罪恶阴谋经过长期准备，都不是匆忙之间的行事。怎么他们能够用上等策略来使我们疲惫，我们自己却不知道自己已经困乏，他们运用长远的计谋来搞乱我们，我们却没有良好的计谋去制服他们呢！

5 训练军队，培养武士，窥测空子，掌握时机，使用间谍，出动奇兵，这是将帅的职责，所谓军事上的事情，国君不亲手处理，是可以的。至于对外预测敌人的阴谋，对内明察国家的形势，知己知彼，凭借计谋来制服敌人，这是朝廷的根本策略，这便是常说的靠庙堂上的策划打胜